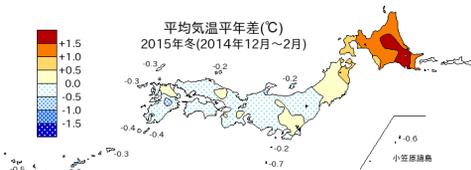


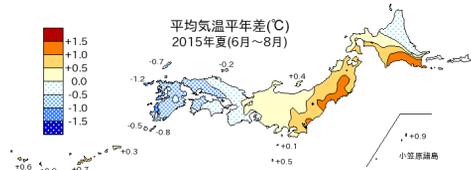
気候系監視年報2015 要約

日本の天候 (2.1)

【2014/2015冬】北日本は暖冬、東・西日本と沖縄・奄美は寒冬となりました。



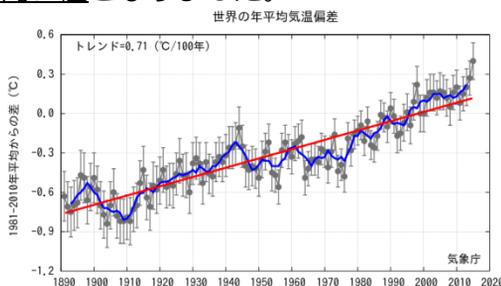
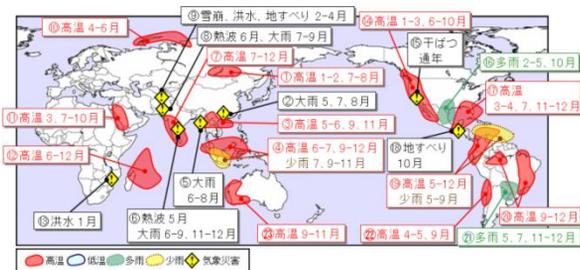
【2015夏】北日本と沖縄・奄美で暑夏、西日本は冷夏となりました。



世界の異常気象・世界の年平均気温 (2.2)

低緯度域では、異常高温となる月が多くなりました。

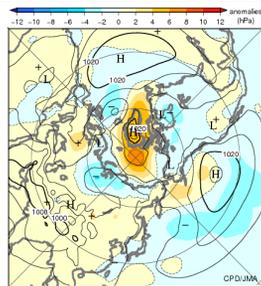
世界の年平均気温は1891年の統計開始以来、最も高い値となりました。



中・高緯度の循環 (2.3)

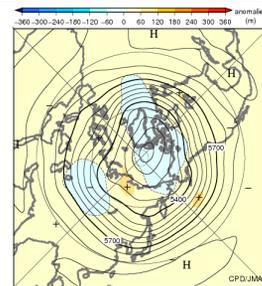
【夏】太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱くなりました。

6~8月平均海面気圧
寒色は平年より気圧が低いことを示す



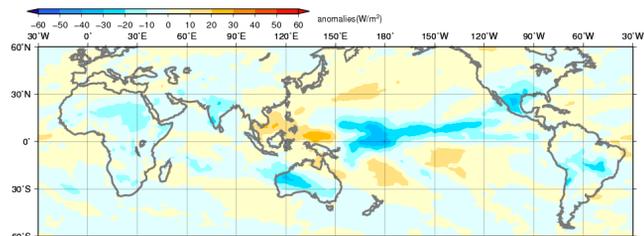
【秋】500hPa高度は全球規模で高くなり、大気全体が暖まっていることを反映していました。

9~11月平均500hPa高度
暖色は平年より高度が高いことを示す

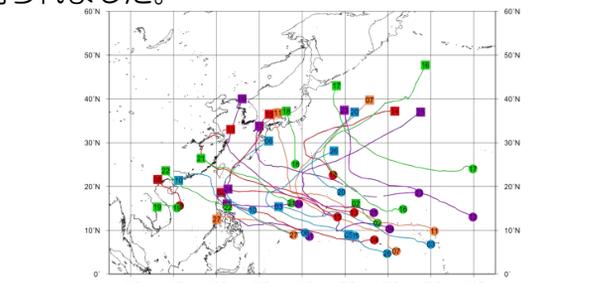


熱帯の循環 (2.4) ・台風 (2.4)

2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、2015年春以降はさらに発達し、太平洋中部から東部の赤道域では積雲対流活動が活発になりました。

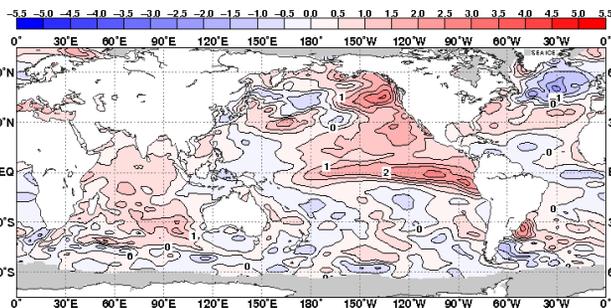


台風の発生数は平年並でしたが、発生位置が平年(136.7°E, 16.3°N)より南東に偏る特徴が見られました。



海況 (2.5)

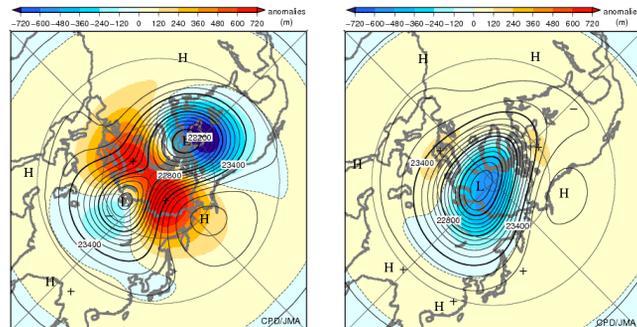
全球平均の海面水温は、夏以降、記録的に高くなりました。太平洋赤道域ではエルニーニョ現象が発達しました。



6~8月の海面水温偏差
暖色は平年より高いことを示す

北半球成層圏 (2.6)

12月末~1月初めに突然昇温が発生し、成層圏の極うず(図の寒色部分)が分裂しました。2月は強い極うずが維持されました。



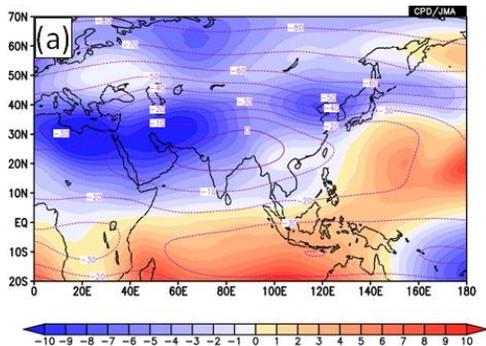
30hPa高度(1月1日
~5日平均)

30hPa高度(2月)

*北極を中心にした図

アジアモンスーン (2.7)

アジアモンスーンは全般に不活発で、チベット高気圧は平年より弱くなりました。

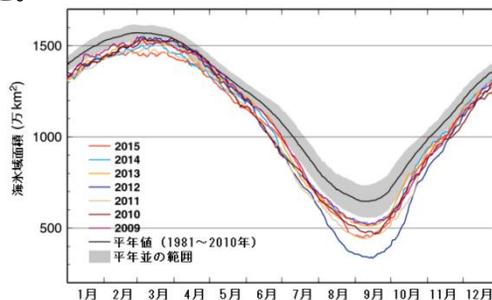


6~9月平均の200hPa流線関数
寒色が平年より高気圧が弱いことを示す

北極の海水 (2.8) ・北半球の積雪 (2.9)

北極域の海水面積の年最小値は、1979年以降で4番目に小さくなりました。

2月の北半球の積雪日数は平年より少なくなりました。

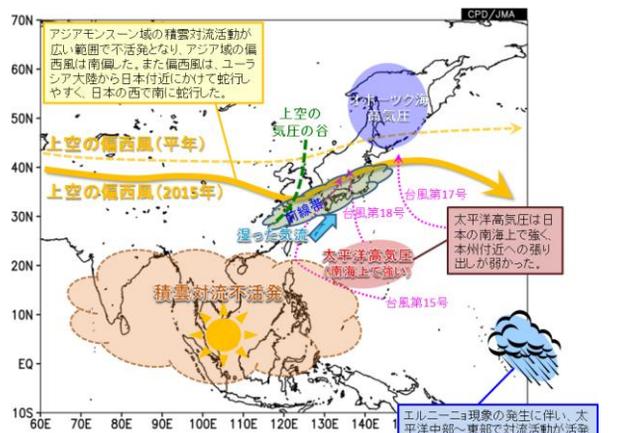


北極域の海水面積

トピックス 2015年夏の日本の天候 (3.2)

8月中旬から9月上旬頃にかけて、日本付近は降水量が多く日照が少ない不順な天候となりました。

エルニーニョ現象の影響で、アジアモンスーン域の対流活動が不活発となり、亜熱帯ジェット気流が南偏したこと、太平洋高気圧の張り出しが弱かったこと、3つの台風の影響を受けたことが要因と考えられます。



不順な天候となった要因 (概念図)